

株式会社 日新

2020年3月期 決算説明資料

2020年5月29日

航空貨物の減少と新型コロナウイルスの影響で減益

I. 2020年3月期 実績 P.3 ~ P.10

II. 新型コロナウイルスの今後の影響 P.11 ~ P.15

III. 第6次中期経営計画進捗 P.16 ~ P.22

IV. ESGの取組み P.23 ~ P.24

I .2020年3月期 実績

2020年3月期 実績

(単位:百万円)	19/3期	20/3期			
	実績	11/5 修正計画	実績	計画比	前期比
売上高	218,040	211,000	197,387	93.5%	90.5%
営業利益	5,698	4,000	3,528	88.2%	61.9%
経常利益	6,584	4,700	4,114	87.5%	62.5%
当期純利益	4,426	3,300	2,705	82.0%	61.1%

2020年3月期 セグメント別実績

(単位:百万円)

	事業		19/3期 実績	20/3期 実績	前期比	
					増減額	率(%)
売上高	物流事業	日本	102,919	99,298	△3,621	96.5%
		海外	51,654	44,148	△7,506	85.5%
	旅行事業		62,052	52,475	△9,577	84.6%
	不動産事業		1,413	1,463	50	103.5%
	その他		2	3	1	150.0%
	合計		218,040	197,387	△20,653	90.5%
営業利益	物流事業	日本	2,570	1,983	△587	77.2%
		海外	1,629	460	△1,169	28.2%
	旅行事業		573	139	△434	24.3%
	不動産事業		874	890	16	101.8%
	その他		52	56	4	107.7%
	合計		5,698	3,528	△2,170	61.9%

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値
 ※ 「その他」は、連結処理等

2020年3月期 セグメント別営業利益推移表

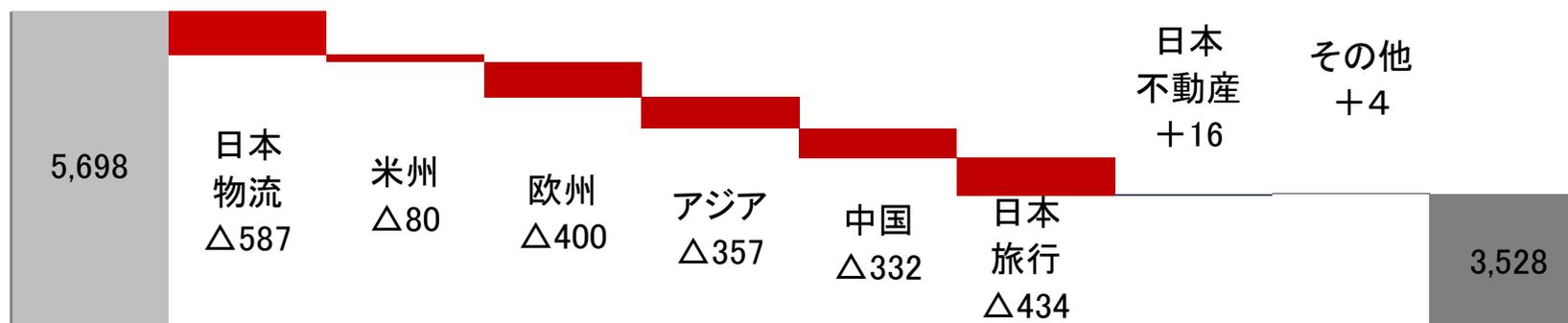
(単位:百万円)

事業		20/3期実績				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期
物流事業	日本	333	558	895	197	1,983
	海外	146	135	86	93	460
旅行事業		109	130	180	△280	139
不動産事業		244	214	208	224	890
その他		17	11	16	12	56
合計		849	1,048	1,385	246	3,528

2020年3月期 営業利益増減比較

前期比較

(単位:百万円)

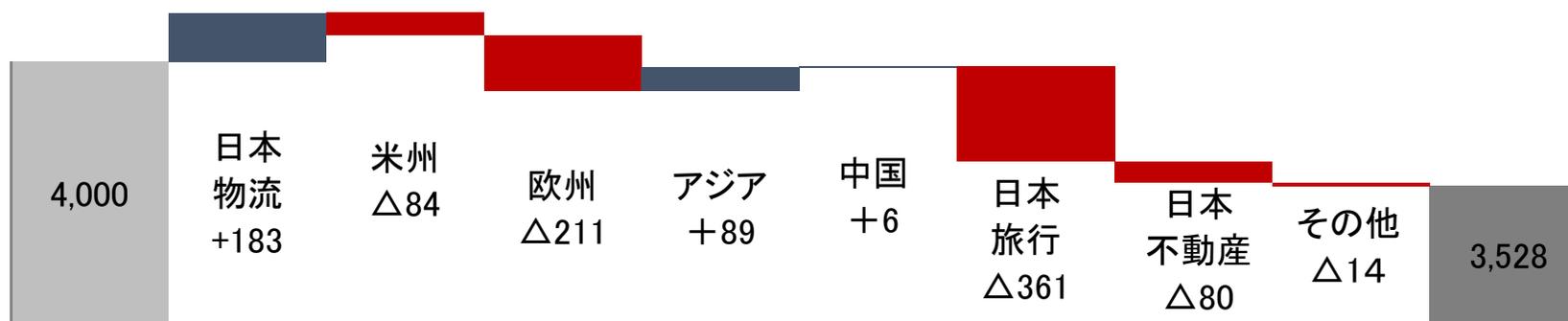


19/3期

20/3期

修正計画比較

(単位:百万円)



修正
計画

20/3期

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値
※ 「その他」は、連結処理等

2020年3月期 営業利益前期比増減要因

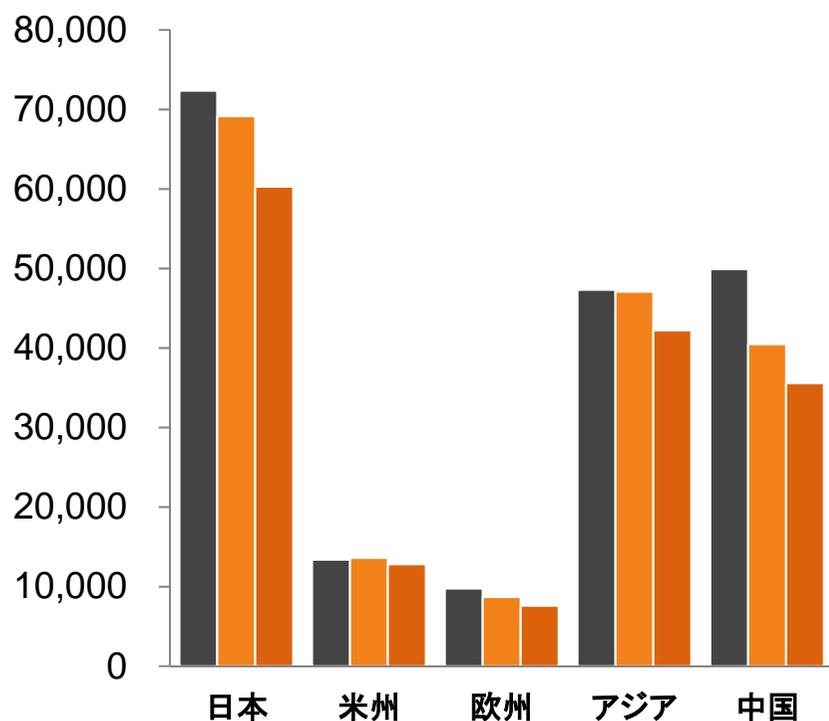
事業	地域	前期比 (百万円)	修正計画比 (百万円)	概況
物流事業	日本	△587	183	化学品・危険品の倉庫、国内配送業務が好調 自動車関連貨物取扱減少 航空輸出入貨物減少
	米州	△80	△84	カナダメキシコは収益回復 米国は自動車関連貨物取扱い減少
	欧州	△400	△211	フランスは収支改善 ポーランド倉庫保管業務が減少 英国の国内トラック輸送事業が縮小
	アジア	△357	89	自動車関連貨物減少に伴う、アジア各国での倉庫業務減少 自動車関連貨物の生産部品、研究品の域内輸送減少 タイ発緊急品航空輸送が発生
	中国	△332	6	香港発、航空貨物の減少 上海倉庫事業低調
旅行事業		△434	△361	業務渡航者数減少
不動産事業		16	△80	京浜地区における不動産事業堅調

航空 物量推移

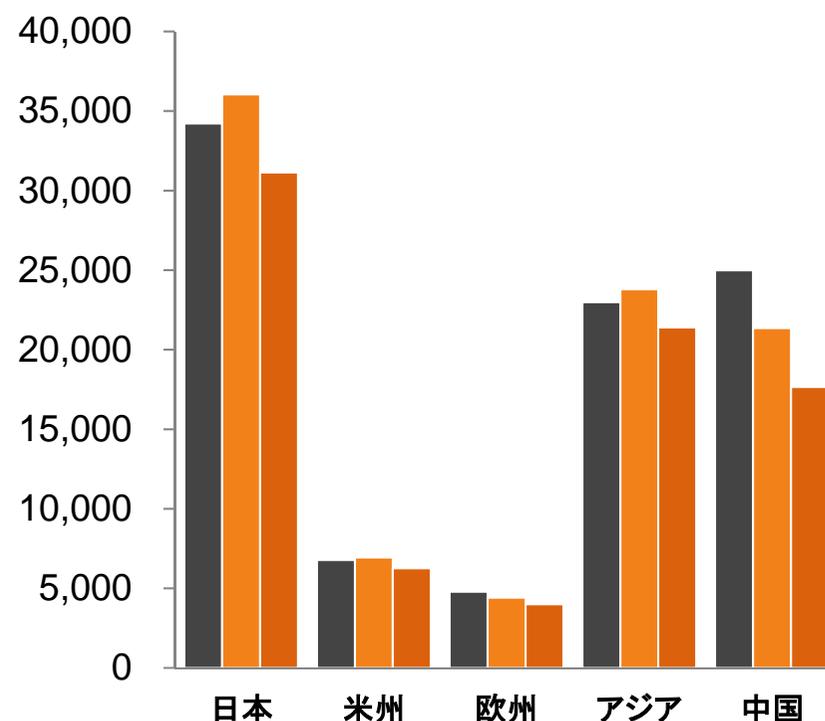
■ 航空貨物量は輸出、輸入とも低調

■ 18/3期 ■ 19/3期 ■ 20/3期

航空 輸出(TON)



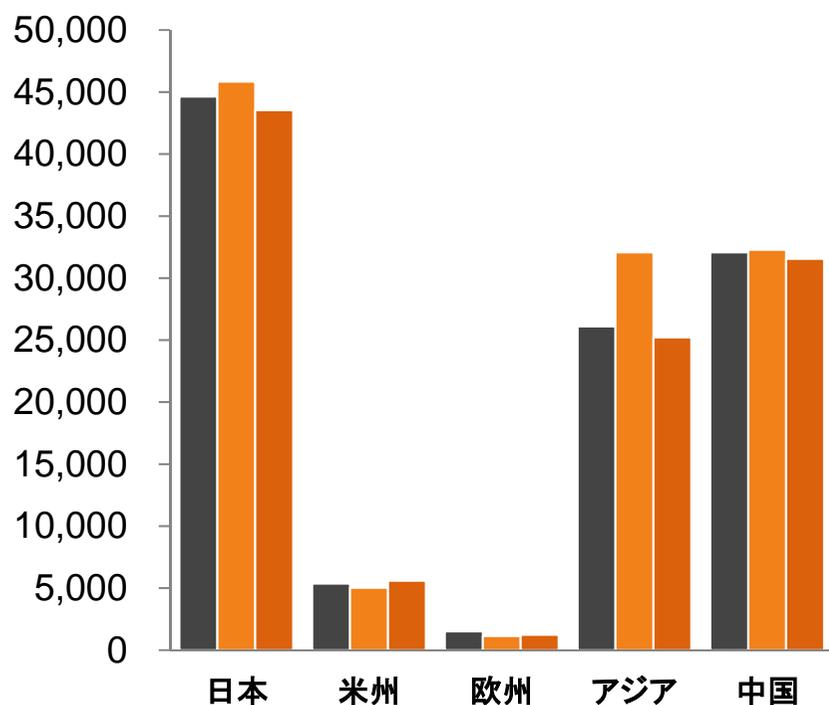
航空 輸入(件)



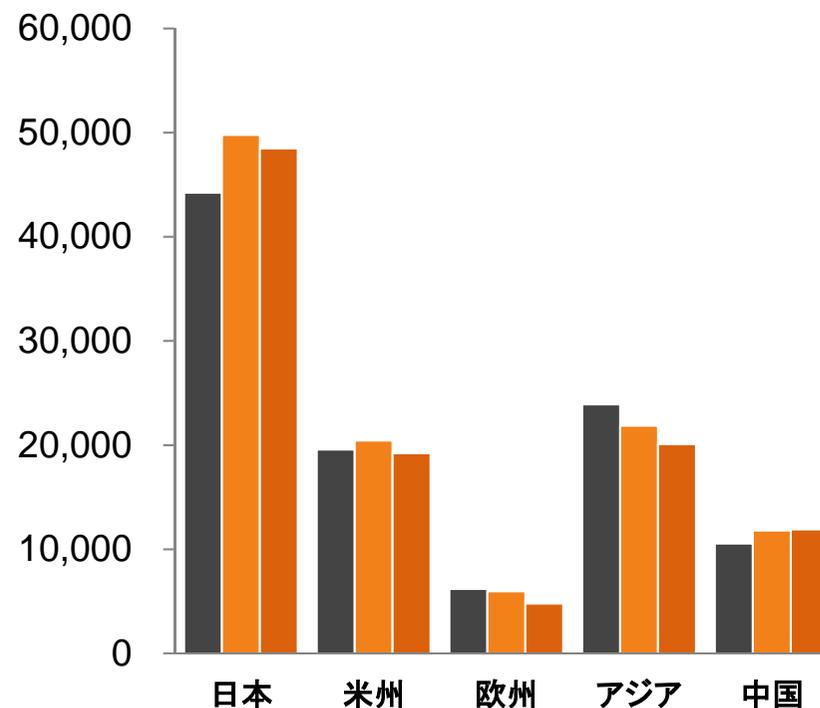
■ 海上貨物は微減

■ 18/3期 ■ 19/3期 ■ 20/3期

海上 輸出(TEU)



海上 輸入(TEU)



Ⅱ . 新型コロナウイルスの今後の影響

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

◆基本方針

お客様の企業活動における物流、輸送、移動へのサービス提供継続を第一優先事項として、社内外の感染被害抑止に努めて参ります。

国内：

- ・ 通関業務継続のために一部職員の複数事務所への分散
- ・ 事務所封鎖を想定したサテライト事務所の設置、テレワーク対応

海外：

- ・ 各国保健当局の指導に基づく防疫処置を徹底
- ・ 各地の状況を日本に発信

国際物流業者としての責務を認識し、役割を果たして参ります。

セグメント別見通し

◆ 物流事業

日本：化学品・危険品、食品事業は新型コロナウイルスに左右されず堅調に推移する見込み。

自動車事業は回復に時間がかかる見込み。

海外：自動車関連貨物の荷動きは生産再開に伴い、回復が見込まれるが、本格化まで時間がかかる見込み。

中国では、すでに底を脱し貨物量は回復しています。

◆ 旅行事業

業務渡航者数の減少は、徐々に回復していくと思われるが、本格的な回復には時間を要する見込み。

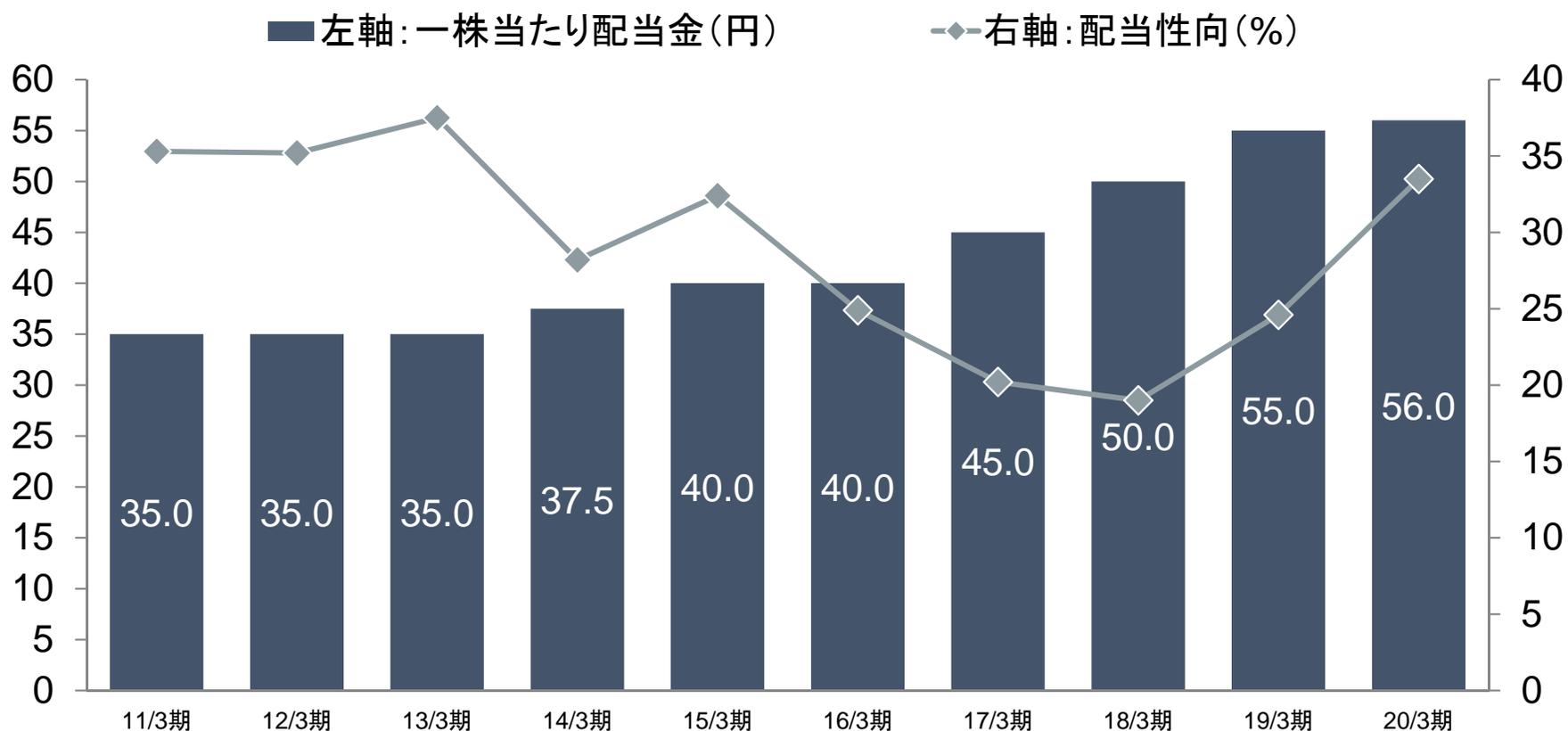
21年3月期業績予想

新型コロナウイルス蔓延による世界経済への影響が不透明の中、21年3月期の業績予想については合理的な算出が困難であるため、未定とさせていただきます。

業績予想につきましては、算出が可能になった時点で速やかに開示させていただきます。

配当政策

- 20年3月期は年間56円の配当を実施
- 21年3月期の配当は現段階で未定とするも、引き続き安定配当を目指す

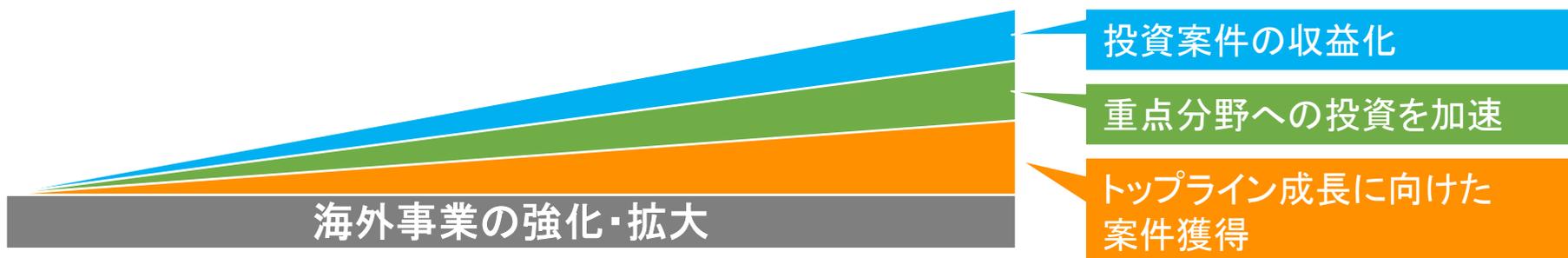


(注)2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

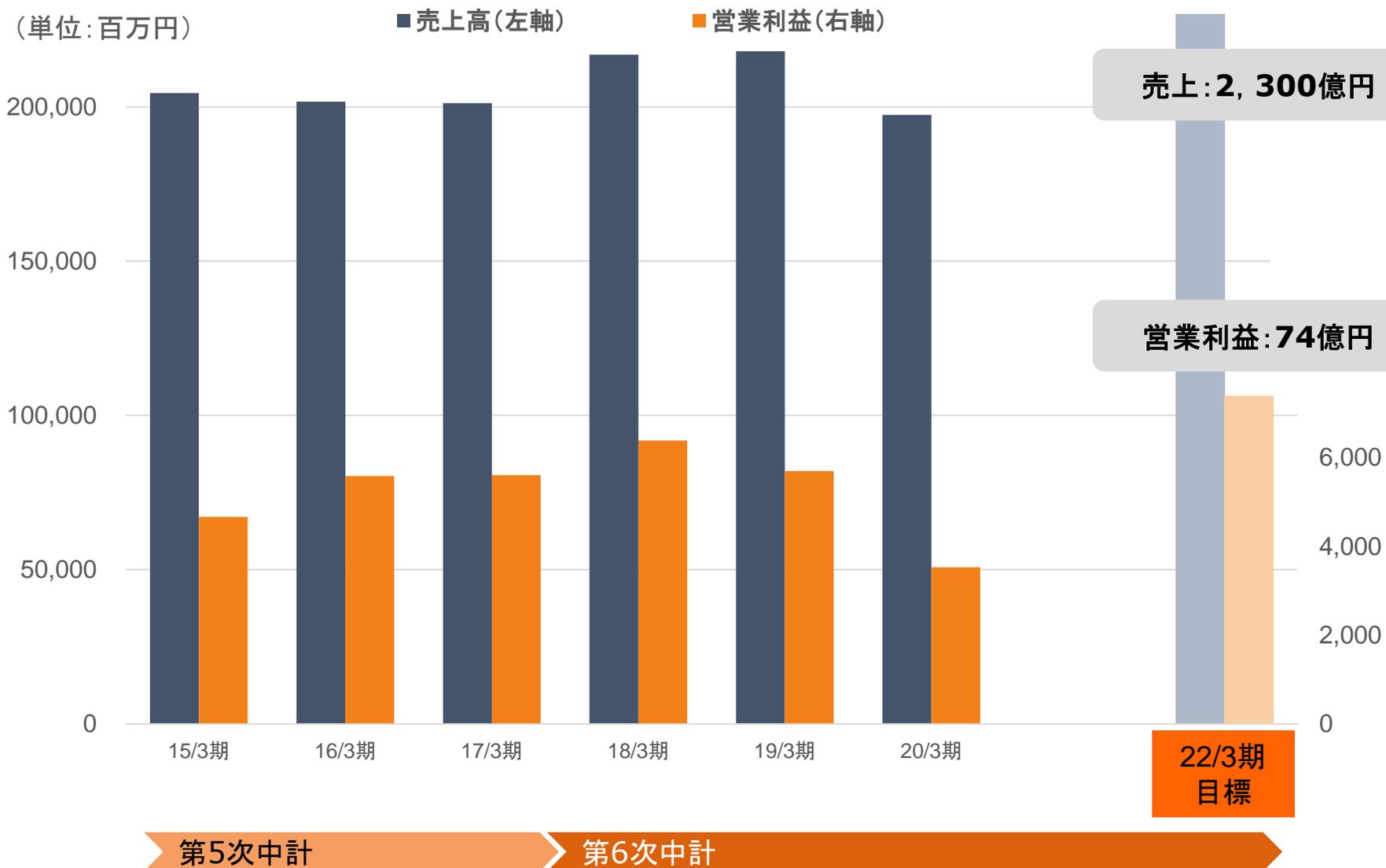
Ⅲ.第6次中期経営計画進捗

第6次中計 基本方針

基本方針	「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」 ~世界最高品質の物流企業への更なる進化~
期間	2017年4月~2022年3月(5年間)
重点施策	<ol style="list-style-type: none">1.重点分野(自動車関連、化学品・危険品、食品物流)2.国内事業の収益力向上<ul style="list-style-type: none">● 物流施設の再編● 業務効率化の追求● 物流事業・旅行事業の連携強化● AIを活用した提案型営業の推進3.グループ経営基盤の強化<ul style="list-style-type: none">● ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底● 人材の確保と育成● 資金の効率化などの財務体質の強化



第6次中計の数値目標



設備投資計画の進捗状況

投資案件	面積	投資額		使用開始
		計画	実績	
海外倉庫		61億円	18億円	---
オハイオ(米国)	12,081m ²			18年3月
上海(中国)	39,197m ²			18年4月
マラッカ(マレーシア)	13,000m ²			18年3月
プラチンブリ(タイ)	10,020m ²			19年1月
国内倉庫		169億円	173億円	---
九州日新アイランドシティ	21,951m ²			19年9月
摩耶西冷蔵倉庫	8,237m ²			20年2月
平和島冷蔵物流センター(仮称)	12,927m ²			21年3月
本牧Aロジスティクスセンター(仮称)	10,085m ²			21年7月
横浜市地区				計画中
I T 投資		30億円	12億円	17年4月～ 20年3月
合計		260億円	203億円	---

重点施策トピックス①

九州日新 アイランドシティーロジスティクスセンター竣工 19年9月

福岡市が国際物流として整備を進めるアイランドシティーに位置し、コンテナターミナル、九州自動車道福岡IC、福岡空港が全て10Km圏内に入る抜群の立地

- ・ 常温、冷蔵両機能を持つ保税倉庫。東アジア諸国への輸出基地も視野に

【施設概要】

名称 : 九州日新アイランドシティー
ロジスティクスセンター
所在地 : 福岡市東区みなと香椎3丁目
施設内容 : 常温(一部空調設備付き)
冷蔵
敷地面積 : 14,703 m²
延床面積 : 21,951 m²
ドックレベラー : 9基



重点施策トピックス②

摩耶西倉庫竣工 20年2月

隣接する既存の摩耶冷蔵倉庫・摩耶埠頭倉庫とともに一体運用することで全温度帯(冷凍・冷蔵・定温・常温)対応完了

- ・ 需要が高まる冷凍スペースの増強を目的として建設
- ・ スピーディーな作業が可能な自動ラック導入
- ・ BCP対策の一環として受電設備、冷凍機等を荷捌棟の2階部分に設置

【施設概要】

名称 : 摩耶西冷蔵倉庫
所在地 : 神戸市灘区摩耶埠頭 2-6
施設内容 : 冷凍自動ラック倉庫
敷地面積 : 4,140.03 m²
延床面積 : 8,237.74 m²
収容能力 : 13,800 冷蔵トン
クレーン数 : 5 台
搬送台車 : 4 台
棚数 : 5,040 パレット



重点施策トピックス③

平和島冷蔵物流センター(仮称)稼働予定 21年3月

東京港、羽田空港に近く、首都圏へのアクセス抜群の立地に最新型冷蔵倉庫を建設予定

地上5階建て、延床面積約18,000㎡、26,000冷蔵トンの収容能力
トラックバース18レーン

【施設概要】

名称：平和島冷蔵物流センター(仮称)
所在地：大田区平和島三丁目
施設内容：冷凍・冷蔵倉庫
延床面積：18,326 ㎡
収容能力：26,341 冷蔵トン



IV.ESGの取組み

日新グループのESG取組み

日新グループの持続的成長

持続可能な社会の実現

Environment	Social	Governance
<ul style="list-style-type: none">• モーダルシフトの推進 (シベリアランドブリッジ) (ベトナムグリーンライン)• 省エネの取組み(拠点へのLED導入)• 物流容器管理サービス「HACO Lab.(ハコラボ)」の積極的運用• 環境配慮型電気設備導入(堺ロジスティクスセンター)• 神奈川県<small>の</small>森林保全事業に賛同し「森林再生パートナー」として活動	<ul style="list-style-type: none">• 英国現代奴隷法への対応• 自動倉庫化による人手不足対応(摩耶西倉庫)• 多様な働き方の導入• 「ホワイト物流」推進運動自主行動宣言を提出	<ul style="list-style-type: none">• 社外取締役の増員• リスク管理活動の推進• 事業継続マネジメント運用開始

企業行動憲章

INFORMATION

資料ならびにIRに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

株式会社 日新

経営企画部

TEL:03-3238-6555

<https://www.nissin-tw.com>

※本資料は投資勧誘の目的のための資料ではございません。
また、将来に亘る部分につきましては予想に基づくものであり、
確約や保証を与えるものではありません。